新年の挨拶

～舞鶴の「タカラモノ」を未来へ～

舞鶴市長
多々見 良三

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、市制施行７０周年という記念すべき節目の年に、赤れんがハーフマラソンの開催をはじめ、市民の皆様と力を合わせ、市内で多くの記念事業に取り組みました。

また、大型クルーズ客船「サン・プリンセス」や「コスタ・ビクトリア」が京都舞鶴港に相次いで寄港し、クルーズ元年と呼ぶにふさわしい一年となりました。寄港時には、１，０００名を超える外国人観光客が本市を起点に京都市や天橋立等を周遊観光されたほか、市内各所を散策され、市民の皆様と触れ合う光景も見られるなど、新たな「国際港湾・交流都市　舞鶴」の訪れを感じさせるものでありました。

そうした寄港時の地域をあげた取り組み等が高い評価を受け、京都舞鶴港が「クルーズ・オブ・ザ・イヤー２０１３」特別賞を受賞したことは、大変誇らしく、本市のおもてなし力の素晴らしさを実感したところであります。

一方で、９月に本市を襲った台風１８号は、市民生活や地域経済に甚大な被害を与えただけではなく、平成１６年の台風２３号からわずか９年足らずの間に、数十年に一度と言われる災害に二度も見舞われたことで、市民の皆様の心に大きな不安を残しました。

そのような中、地域一丸となって早期復旧に向け取り組んでいただく姿や地域に寄せる熱い思いに触れるたびに、改めて地域の「絆」の強さを感じたところであります。

また、一日でも早く元気な地域を取り戻せるようにと、市域だけではなく、市外からも多くのボランティアの方に駆け付けていただいたことを改めて深く感謝申し上げます。

地域の皆様の復旧にかけるご努力、早期の対策を求めるお声を、京都府と共に国へと伝えてきたところであり、昨年１１月末には、由良川沿川の地域で新たに緊急的な治水対策が実施されることとなり、当初の概ね３０年の計画が概ね１０年に大幅に短縮して取り組まれることが決定しました。

２０１３年は、こうした地域が育んできた人の力、絆の強さを実感した一年であったと思っております。

市制施行７０周年を機に、市民の皆様から公募でいただいた歌詞を基に制作しました「舞鶴イメージソング」に「このタカラモノを未来へ」というフレーズがあります。

舞鶴には、本当に数多くの「タカラモノ」があります。

この「タカラモノ」を次なる世代へ、より素晴らしい「タカラモノ」として引き継ぐこと、また、新たに創り出す環境を整えることが、今に生きる我々の責務であると感じております。

私が、市政を担わせていただき約３年が経ちましたが、地域資源を活かした着地型観光の推進や地元企業の「夢」を形にするリーディング産業チャレンジファンド等による「活力あるまちづくり」をはじめ、由良川治水対策の促進、地域医療の充実・強化、教育環境の充実、子育て支援の強化などによる「安心のまちづくり」、公開事業評価の実施、公平公正な市政運営を行うための債権管理の適正化、公共施設のあり方検討などによる「市民に役立つ市役所づくり」は、着実に進捗していることを実感しております。

平成２６年度は、舞鶴若狭自動車道、京都縦貫自動車道が全線開通し、高速道路網が完成します。京都舞鶴港も機能が強化され、陸路・海路を通じた「人」「モノ」の流れが飛躍的に増大することが期待されます。クルーズ客船の寄港回数も、昨年の７回から倍増する予定であり、また、京都府「海の京都」の中核イベントとして、府北部５市２町で開催します「海フェスタ京都」は、７月１９日から１６日間にわたり、クルーズ客船や帆船など様々な船の寄港をはじめ、海の魅力を伝える総合展やコンサート、グルメイベントなどにより数十万人の来場者が見込まれる大規模なイベントであり、国内外の多くの方に舞鶴の魅力を発信する絶好の機会と捉えております。

この大きな好機を最大限に活かし、「舞鶴はひとつ」となって、さらに大きく飛躍するための取り組みを進めていきたいと考えております。

舞鶴の「タカラモノ」を未来へ繋いでいけるよう、本年も変わらぬお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

年頭にあたり、市民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。